2025 年 6 月 1 日発行

一般社団法人 日本顎顔面補綴学会

Japanese Academy of Maxillofacial Prosthetics

Newsletter No. 41

Maxillofacial Prosthetics

発行人　松山美和　　編集　広報委員会

事務局　〒135-0033　東京都江東区深川 2-4-11　一ツ橋印刷（株）　学会事務センター内

Tel：03-5620-1953　Fax：03-5620-1960

E-mail：max-service@onebridge.co.jp

委員会トピックス

若手研究者に対する国際学会発表支援の新規事業について

国際交流委員会

本年度から若手研究者に対する支援プログラムをリニューアルして始めます．2016 年から始まった当学会の若手研究者短期海外研修プログラムは，これまでに 2 回の海外研修を行ってきましたが，コロナ禍により中断していました．その後，海外研修プログラムの再開を目指して関係者間での協議を続けてきましたが，ポストコロナの環境で研修受け入れ先の手続きが煩雑となってきたことや，準備に時間がかかることから，これまでとは違った方法で若手研究者の支援プログラムを行うこととなりました．

今回のプログラムのポイントは，学会からの支援が迅速にひろく若手研究者に届くように，国際学会での顎顔面補綴に関する発表について，一律 5 万円の支援を行うことです．当学会は，国際交流事業として 2022 年に米国顎顔面補綴学会（AAMP）と戦略的な連携団体として協定を締結しました（Strategic Alliance Organization）．毎年行われる AAMP の年次大会に JAMP の会員は会員料金にて参加が可能となっています．このような機会に日本から参加し演題発表する若手研究者に，些少ではありますが学会参加の援助を行いたいと考えています．もちろん AAMP に限らず顎顔面補綴に関する国際学会であれば，同様にサポートしていきます．

申請に必要なのは，学会抄録（プログラム）の提出のみです．本学会の会員であり（会員歴が 3 年以上），35 歳以下の若手研究者であれば，どなたでも応募できます．年間 3 件から 4 件の演題について採択し，学会からの支援を予定しています．本プロジェクトに採択された演題については，国際学会での発表後，学会誌への報告と本ニュースレターへの投稿をお願いすることになります．詳しくは，6 月の仙台での学術大会における会員総会でご案内します．国際学会での発表をお考えの先生方は，ぜひこの機会に応募してください．よろしくお願いいたします．

（国際交流委員会委員長　尾澤昌悟）

第 41 回日本顎顔面補綴学会総会学術大会
第 28 回日本顎顔面インプラント学会報告

2024 年 11 月 30 日～ 12 月 1 日に，福岡国際会議場（福岡県福岡市）で，「多職種連携 UP DATE」のテーマのもと，第 41 回日本顎顔面補綴学会総会・学術大会が第 28 回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会との併催で開催されました．本学会の学術大会は例年 6 月ですが，日本顎顔面インプラント学会の会期に合わせて開催したため，例年より半年遅らせての開催となりました．今回は大会校が共に福岡歯科大学であり初めての共催に繋がりましたが，事務的な面が両学会で異なることがあり例年にはないご苦労もあったとのことです．

学会参加人数は，本学会員　153 名，顎顔面インプラント学会員　282 名，両学会所属者 63 名，特別講演，APIS・AAMP シンポジウム，3 つの教育講演とシンポジウム，口演発表 51 演題，ポスター発表 50 演題と規模も大きく，会場では，いつもとは異なる顔ぶれと発表に新鮮かつ新たな交流が生まれるとともに，学際領域で共通する課題の認識や，本学会の活動をアピールできる有用な機会となりました．今年度は通常開催のため，学会終了 2 か月後に次の学会の抄録登録が開始するという，タイトなスケジュールという問題もありますが，定期的に共催を希望する声も多く聞かれました．

（広報委員会委員長　中島純子）

教育講演 I

教育講演 I では，福岡歯科大学耳鼻咽喉科学講座教授の山野貴史先生が「耳鼻咽喉科とおこなう摂食嚥下診療 ― 多職種連携のその先 ―」と題してお話しされました．

講演では，多職種協働による摂食嚥下診療の重要性とともに，具体的な手術の実際やその有効性について詳述されました．先生が所属される福岡歯科大学摂食嚥下・言語センターでは，耳鼻咽喉科が総括する診療体制のもと，内科，歯科，言語聴覚士，歯科衛生士などが連携し，スクリーニングから外科的治療まで包括的に対応しています．特に嚥下機能改善手術や誤嚥防止術の選択基準と有効性について具体的な解説があり，例として声帯内方移動術の実際が供覧されました．このような手術について知る機会は少なく，大変興味深い内容でした．

また，口腔内評価指標である OHAT と嚥下機能に関連が認められないため，口腔環境評価と嚥下機能評価は独立して行う必要があることを強調されていました．特に，病院を受診して，嚥下内視鏡や嚥下造影検査で病態を把握することが重要とのことでした．最後には，遠隔診療や施設ミールラウンドの実際も紹介され，患者の QOL 向上と安全な経口摂取を実現するための包括的な取り組みが紹介されました．

本講演は，多職種間のさらなる連携と診療の向上に繋がる示唆に富むものであり，講演後には活発な質疑応答がなされました．

（広報委員会　猪原　健）

懇親会でご挨拶をされた
両学会の設立にご尽力された
瀬戸晥一 先生

松山美和 理事長

日本顎顔面インプラント学会
嶋田　淳 理事長

2024年度優秀論文賞受賞者の声

依田　信裕 先生
東北大学大学院
歯学研究科
口腔システム補綴学分野

受賞論文
腓骨皮弁による下顎骨再建後の骨リモデリング：臨床データとComputer-Aided Engineeringにおける生体力学的解析（47巻1号　p.6-13）

このたびは，2024年度日本顎顔面補綴学会優秀論文賞という栄誉ある賞をいただき大変光栄に存じます．

これまで私どもの研究グループは，下顎骨区域切除後に腓骨皮弁による下顎骨再建術を受けた患者を対象に，同患者の術後フォローアップCT画像による骨接合部の骨変化解析と，同CTベースの有限要素解析（Finite element analysis：FEA）を応用し，骨接合部の骨リモデリングに関する生体力学解析を行ってきました．本論文ではこれらの解析結果のみならず，FEAの高精度化に資する患者固有の咀嚼筋群筋力推定方法，ならびに患者固有の骨リモデリングアルゴリズム構築手法を紹介しました．さらに，このアルゴリズムを応用し，骨リモデリングに影響しうる咬合力やチタンプレートの最適固定条件を調査した研究結果を示しました．

本研究の遂行にあたり多くのご指導を賜りました，東北大学病院顎顔面口腔再建治療部の小山重人先生，東北大学大学院歯学研究科の佐々木啓一先生（宮城大学学長），シドニー大学のQing Li先生，ならびにご協力を賜りました諸先生方にこの場を借りて心より感謝申し上げます．また，日本顎顔面補綴学会会員の先生方に御礼を申し上げると共に，本学会の益々のご発展をお祈り申し上げます．

名誉会員に聞く 4
谷口　尚先生
東京医科歯科大学名誉教授（現：東京科学大学）

第6代本学会理事長，第32回総会・学術大会長をお務めになられた 谷口　尚先生に，委員会より3つご質問を申し上げ寄稿を頂きました．ご協力を賜りましたことに紙面をお借りして厚く御礼申し上げます．（広報委員会委員長　中島純子）

学会でのエピソード・印象に残っていること

沖縄県名護市万国津梁館にて2002年10月に開催された第19回日本顎顔面補綴学会は，第5回国際顎顔面リハビリテーション学会との合同シンポジウムとして開催され，世界20カ国から280名の参加がありました．2000年7月に第26回主要国首脳会議（沖縄サミット）が万国津梁館にて開催され，国際シンポジウムに相応しい会場として決定されましたが，直前に台風が関東を直撃し，成田・羽田空港経由での参加者が大きな影響を受けた事を記憶しています．また，国際顎顔面リハビリテーション学会では，通常2～3つの研修プログラムが実施されていましたが，会場の関係で研修プログラムは実施できず，残念な結果に終わってしまいました．しかしながら，日本顎顔面補綴学会としての国際シンポジウムの経験は，その後の学会運営に大変有益であったと感じています．

今後の学会に期待すること

グローバル化が避けられない状況の中，東南アジアや環太平洋地域を包含した合同シンポジウムの主催，他方で学際領域治療の更なる展開を図るため，医科・歯科領域以外の音声・外傷などを対象とした芸術・スポーツ領域などとの有機的な連携が必須になると思われます．こうした視点に立った運営を期待しております．

現役学会員に一言

本学会の優れた特徴に会場での熱心・活発な討論・質疑応答がありますが，多くの参加者が加われるように，事前の準備をお願いしたいと思っております．

関連学会の報告

第 26 回日本口腔顎顔面技工学会学術大会

2024 年 11 月 16 日,「これからの歯科技工　これからの顎顔面技工」をテーマに，第 26 回日本口腔顎顔面技工学会学術大会が宮城県仙台市の仙台歯科技工士専門学校で開催されました．歯科技工士専門学校が会場となるのは今回が初めてです．

前日の 11 月 15 日には前夜祭として，伊佐次厚司氏と西川圭吾氏による，学生向けの総義歯の概論と部分床義歯のデジタル化に関する講演も行われました．

大会当日は, 大会長講演やシンポジウムに加え, 12 件の一般口演が行われ，休憩がほとんど取れないほどの濃密なプログラムとなりました．一般口演では，文献調査や学生への意識調査，さらにはエピテーゼや顎顔面技工におけるデジタル技術の活用などが発表され，大会全体を通して今後はデジタル技術の習熟が歯科技工士にとって重要になると感じられました．当初は会場の収容人数の都合によりオンライン開催の予定でしたが急遽対面に変更となりました．来場者数が懸念されたものの 70 名を超える参加者が集まり，用意された机が足りないほどの盛況ぶりで，顎顔面技工分野への関心の高さが改めて示されました．次回の学術大会は 2025 年 9 月 20 日，兵庫医科大学西宮キャンパスで開催予定です．

（広報委員　宮本哲郎）

日本デジタル歯科学会 第16回学術大会報告

2025 年 5 月 10 日（土）～ 11 日（日）に日本歯科大学生命歯学部で行われました．メイン会場にて「デジタル技術は歯科医療を変革したか？」の特別講演やメインシンポジウム，第 2 会場でシンポジウムなどが行われました．特別セミナーでは「世界のデジタルイノベーションと ISO 規格」について講演が行われ，今後の医療機器開発での ISO 規格化について学ぶことができました．ポスター発表は 37 演題あり，顎顔面補綴に関しては新潟大学の 3D プリンタで製作したマウスピースを用いた PAP 体験実習の報告がありました．本学会で実施している PAP ハンズオンセミナーと同様なものを学生実習で体験するため IOS やプリンタを用いているとのことで，今後，顎顔面補綴に関しての学生実習に取り入れられる可能性を感じました．企業展示やセミナーで多くの IOS などのデジタル機器についての情報が得られ，日々進歩するデジタル機器について情報収集と比較ができました．　（広報委員　大木明子）

コンテンツ

委員会トピックス
・若手研究者に対する国際学会発表支援の新規事業について…… 1
第 41 回日本顎顔面補綴学会総会学術大会
第 28 回日本顎顔面インプラント学会報告…… 2
2024 年度優秀論文賞受賞者の声…… 3
名誉会員に聞く 4
・谷口　尚先生…… 3
関連学会の報告
・第 26 回日本口腔顎顔面技工学会学術大会…. 4
・日本デジタル歯科学会 第 16 回学術大会報告…. 4

皆様のご意見をお寄せください．

一般社団法人日本顎顔面補綴学会　広報委員会
委員長　中島純子
委　員　猪原　健，大木明子，佐藤奈央子，
村上和裕，宮本哲郎，吉岡　文
E-mail：max-service@onebridge.co.jp